



今年も散々な夏でしたね。六月の大坂府北部地震には始まり、七月の集中豪雨、八月の毎週の様な台風襲来。十年に一度起こるかどうかの災害が一度に各地で起こってしまった、皆様方には随分とご苦労された方も居られるのではと思ひ居ります。

そこに確かに在るもの



発行
成相山成相寺
京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

災害に遭われました方々に、心よりお見舞い申し上げます。

成相寺でも七月の集中豪雨で西谷からの車道がおおよそ百メートル程、陥没してしまい、予定をしておりました西国十三札所会の月参り巡礼も延期になってしまいました。

「月参り巡礼」と申しますのは、「西国一千三百年草創」事業の一環で、毎月札所が当番で、その日だけの御朱印を帳面に押印させて頂く行事です。十一月の九日に成相寺で執り行う予定ですが、2巡目もあるそうなので、又この紙面でご案内させて頂きます。

この西国札所会には「先達」と云う資格をお持ちの方が大勢居られます、多い方では三十回、五十回と西国全札所を巡礼して廻つておいでになります。納経所の職員も顔なじみになり心やすくお話しさせて頂く方々も居られます。先日、お参りの先達様とお話ししておりました。こんな事をお聞かせ下さいました。「仕事にあぶれましてな。暫くは観音参

りどころやなかつたんです。ほんなら、この間もう諦めてたのに就職が決まって。嬉しいてね。さっそくお礼参りです。そやさかい成相さんも二年ぶりですわ。

札所さん詣れんかった間にも、ずっと観音さんに毎日手を合わせてお勤めはしてたんです。嬉しいわ。聞いてくれてはったんやわ」と、満面の笑顔でした。

「ああ、この方も心の中の観音様とずっと繋がって居られるんだな」と思いました。

観音様は色々なお姿に変化なさって、十一面観音様や如意輪観音様。聖観音様。そして色々なお寺でそれぞれにお祀りされて居られます。しかし、お寺にお参り出来なくても、手を合わせて目をつむると、そこに自分だけの観音様のお姿がうかぶんだと言う方が、ほんとに大勢居られます。

私もお勤めをしておりますと、お観音様とお大師様がまぶたの裏にはつきりとうかんで来て下さいます。それは、大学生の時に高野山で修行中に見たお大師様の御真影だったり、成相寺のご本尊様のお姿だったり。目の前にお姿はなくても確かに私の中にはお観音様とお大師様の

お姿があり、いつも守って下さっていると言う確信が私にはあります。

この文章を読んで頂いて「私も同じです」と仰つて下さる方が多いと思ひます。

こんなに色々な事が起こる世の中。確かなものなど無い様に思えますが、心の中の観音様はお姿は見えないけど確かに居られて、確かに私たちを応援し力づけて下さっております。皆様の心の中にも居られると確信しております。

異常気象や殺伐としたこんなご時世ですが、心は負けないで下さい。皆様それぞれの心の中の観音様と共に頑張つて下さい。頑張りましょう。

南無観世音菩薩 山主 弘眞





山内順礼 番外編

皇太子殿下の御即位を前にして

いよいよ、来年の徳仁親王殿下のご即位の日程等が決まって参りました。

成相寺には寺宝という物が多々御座いますが、当時の浩宮殿下、のちの皇太子殿下が成相寺にお成り下さいました折の写真も寺宝の一つです。

昭和五八年五月。殿下がオックスフォード大学への御留学に先立ち各地をご訪問のうちに、成相寺へお越し下さいました。祖父の哲真と父の昭真がお出迎えし、本堂をご案内致しました。

私はまだ学生でしたので玄関先でご挨拶だけでしたが、お迎え出来た事に格別誇らしい気持ちで居たのを思い出します。

成相寺は慶雲元年（七〇四年）に、文武天皇の勅願でこの天橋立に寺院が建立されたと言うのが始まりで御座います。文武天皇とは草壁皇子（文武天皇第二皇子）の長男。持統天皇の孫に当たる方で当時一五歳という先例のない若さで即位なされた天皇です。

大宝元年（七〇一年）に大宝律令が完成し、翌年公布なされており、この大宝律令において初めて日本の国号（にほんという呼び方）が定められたとされます。そして慶雲元年には遠く飛鳥の地よりこの橋立に「お寺を建てよ。」と言う勅命が下ったのです。時代の転換期に多くの業績を残された天皇です。

来年の五月一日にはいよいよ徳仁親王殿下が天皇になられます。新しい年号は何になるのでしょうか。皇太子殿下と皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

